

【学校教育目標】 ふるさとを愛し、夢の実現に向け 感謝の心を持って共に学び合う児童生徒の育成 ～対話・協働・探求・創造～		【本年度の重点目標】 不登校児童・生徒数の改善、未然防止 【数値目標：前期課程12人以下、後期課程18人以下】		
(A:できた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった)		自己評価（4:よい 3:だいたいよい 2:努力を要す 1:すぐに改善）		
分野	評価指標	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学校経営	「学校の教育目標（重点目標）を達成するために、日常の教育活動に取り組んでいる」 ＜結果＞ 教員AB評価：98%	3.2	・先生方の自己評価が高いのは良いことだと感じる。自信をもって来年度も取り組んでもらいたい。	○義務教育学校3年目となるので、2年間の成果・課題を踏まえ、教職員個々が主体的に参画する学校経営を目指す。
	「校務分掌の担当として、部で共通理解を図り、取組を進めている」 ＜結果＞ 教員AB評価：94%	3.1	・小中一貫の義務教育学校のメリットも多いと思うが、デメリットもあると思う。先生方で協力、連携し取り組んでいてもらいたい。	○前期・後期課程でさらに連携を深め、全職員間のコミュニケーションを活発に行い、チームでの実践と改善を図る。
	「学級担任及び副担任が協力して、意図的・計画的に学級経営ができている」 ＜結果＞ 教員AB評価：96%	3.3	・後期課程の教員の学年チームでの取組が良いお手本となり、前期課程も学年チーム、専科チームで取り組むようになっているのが良いと思う。義務教育学校になったメリットだと感じる。ぜひ継続、発展してほしい。	○担任が一人で抱え込むことがないよう、指導の共通理解の推進（児童生徒状況の情報共有・対話を密に行う等）を図り、学年やチームで連携し、統一した指導を行っていく。 ○運営委員会や各種委員会の情報を同学年会等で確実に伝達し、「報告・連絡・相談」の徹底を図る。
	「学年会議で学年の課題の共有を図り、課題解決に向けた実践・評価・改善ができている」 ＜結果＞ 教員AB評価：97%	3.3		
	「研修（校内・校外）に自主的・意欲的に参加して、実践的指導力の向上に努めている」 ＜結果＞ 教員AB評価：87%	3.1	・前後期課程の全教員で香春思永館の研修会に参加するなど、自主的・意欲的に研修会に参加する体制ができている。	○キャリアや専門性を向上させるための研修に積極的に参加できる体制をさらに整えていく。 ○前期・後期課程がお互いに学び合える校内研修を実施していく。
	総合所見	「学校経営」に関して、昨年度より教員の自己評価が向上し、前期・後期課程で連携しながら教育活動に取り組み、学校教育目標（重点目標）を具現化しようとする教職員の意識がさらに高まってきている。今後も全職員間のコミュニケーションを活発に行い、チームでの実践と改善を図り、協働体制を推進していく。		
教育活動	「児童生徒が意欲を持ち、進んで考えようとする授業づくり、わかる授業づくりを進めている」 ＜結果＞ 教員AB評価：83% 保護者AB評価：85% 「授業は楽しくわかりやすい」児童AB評価：91% 「主体的に授業に取り組んでいる」生徒AB評価：97%	3.0	・学力向上の取組に対する成果が出ていることが素晴らしい。 ・前期課程のイナスタでも、英語に取り組んだらいいと思う。英語に対する苦手意識を減らすことにつながると思う。 ・前期課程において、小1プロブレムについて、どう考え、取り組んでいるか。現在、保育園、幼稚園への訪問授業や聞き取りなどが行われているが、「かけ橋プログラム」という保幼小連携の取組がある。小学校入学に向けて、保育園や幼稚園で身につけておいてもらいたい力や取り組んでおいてほしいことなどについてお互いに情報交換をし、連携内容の共有と強化を図っていききたい。	○課題解決に向けて主体的・対話的に学ぶ児童生徒の育成を目指した授業づくりに取り組んでいく。 ○保幼小との連携、前期・後期課程との連携を大事にし、情報交換をして、連携内容の共有と強化を図っていく。
	「自分の考えや条件を指定する等の思考を伴う「書く」活動を授業に位置付けている」 ＜結果＞ 教員AB評価：74% 「自分の考えをノートなどに書く」児童AB評価：88% 「根拠を明確に筋道を立て自分の考えを書く」生徒AB評価：90%	2.9		○理由や根拠とともに自分の考えを書く活動や終末場面で授業の振り返りを書く活動を位置付けていく。 ○「書く活動ポイント9」を活用し、思考を伴う書く活動を取り入れた授業づくりを推進する。
	「学力C・D層の児童生徒の学力向上につながるための創意工夫ある取組を行っている」 ＜結果＞ 教員AB評価：68% 「学力向上のために努力や工夫をしている」保護者AB評価：90%	2.8		○算数・数学科、英語科、国語科において重点単元を選定し、分割授業（含む習熟度別）や少人数授業、TT授業を行い、きめ細かい指導に取り組む。 ○学力向上委員会において前期・後期課程で情報交換をし、指導方法の工夫・改善に取り組む
	「不登校児童生徒を生まない学級づくりに取り組んでいる」 ＜結果＞ 教員AB評価：85% 「日々楽しそうに学校に通っている」保護者AB評価：91% 「学校は楽しい」児童AB評価：94% 生徒AB評価：90%	3.0	・子ども達に「学校、楽しい？」と聞くと「楽しい！」と即答した。学校が楽しいと即答できることが素晴らしい。嬉しくなった。	○不登校対策委員会で児童生徒の状況を共有して対応を協議し、関係機関と連携して取り組んでいく。（不登校の未然防止・早期発見・早期対応・継続的な支援）
	「いじめやそれにつながる事象をとらえ、予防的な指導を行っている」 ＜結果＞ 教員AB評価：96% 「友達に嫌なことをしたり、されたりしていない」保護者AB評価：90% 児童AB評価：95% 生徒AB評価：52%	3.2	・教員AB評価が高いのは、いじめの予防的な指導をされているということで良いことだと感じるが、生徒AB評価が低いことが気になる。先生と生徒との認識の違いがあるのではないかと。 ・心を育てる教育の更なる推進をお願いしたい。	○いじめ早期発見アンケートを実施し、いじめの未然防止と初期対応の徹底を図る。 ○児童生徒が自分の状況や気持ちを安心して書くことができるように、カスタを活用して自宅で記入するなど、アンケートの取り方や内容を検討する。
	「児童生徒理解に努め、日々の教育活動において積極的な生徒指導をすすめている」 ＜結果＞ 教員AB評価：99% 「子どもをよく理解し指導している」保護者AB評価：90%	3.3	・後期課程の生徒が、前期課程の児童の良きお手本となってくれているところがとても良いと思う。義務教育学校になったメリットだと感じる。	○生活アンケートやアセスの実施後に教育相談を行い、児童生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることができるよう取組を進めていく。 ○情報を共有し、連携し統一した指導を行っていく。
	「ふるさとを愛する児童生徒の育成を目指し、地域のひと・もの・ことを活用した学習に取り組んでいる」 ＜結果＞ 教員AB評価：59% 「稲築のことが好き」児童AB評価：96% 生徒AB評価：87% 「地域の行事に関心がある」児童AB評価：88% 生徒AB評価：60%	2.6	・GTとして山野ん楽の話をさせてもらったとき、子ども達が生き生きとして聞いてくれた。ふるさとや伝統に触れる機会を増やして、対話や交流を継続・発展させてほしい。 ・コロナ禍があげ、地域の施設見学など、例年やっていたことが復活してよかった。今後、先生方の見学と交流研修も行っていききたい。	○学校と地域（保護者・地域住民等）が目標を共有し、「地域とともにある学校づくり」を推進して、ふるさとを愛する児童生徒の育成を目指す。 ○9年間を見通した学習活動の構築を図り、総合的な学習の時間や社会科等でGTに来ていただいたり地域探検を行ったりしてふるさと学習に取り組む。
	総合所見	学力については、書く活動や分割授業・少人数授業などのきめ細かい指導、継続したイナスタの取組により、学力検査等において学力の向上が見られた。学校生活では、全校児童生徒が安心して過ごすことができるように、日頃から丁寧に児童生徒一人ひとりと関わり、いじめや不登校の早期発見・早期対応に努めていく。		
児童生徒の状況	「児童生徒は、毎日楽しく学校に登校している」 ＜結果＞ 教員AB評価：94% 保護者AB評価：91% 「学校は楽しい」児童AB評価：94% 生徒AB評価：90%	3.1	・公園で遊んでいる子ども達に「学校、楽しい？」と聞くと「楽しい！」と即答した。即答できることが素晴らしい。嬉しくなった。公園や外で遊ぶ子が増えてきているように感じる。	○来年度も、児童生徒が『登校して楽しい』と思えるよう、一人ひとりを大事にした学校づくりに取り組んでいく。 ○「いこいの広場」の遊具設置やサブグラウンドの整備により、全学年の外遊びを推奨していく。
	「児童生徒は、きまりを守って学校生活を送れている」 ＜結果＞ 教員AB評価：76% 保護者AB評価：90% 児童AB評価：91% 生徒AB評価：97%	2.8	・日常の学校生活の中で後期課程の生徒が、前期課程の児童の良きお手本となってくれているところが良いと思う。義務教育学校になったメリットだと感じる。	○異学年交流をさらに推進し、高学年が低学年のお手本となれるような活動（縦割り掃除やあいさつ運動等）に取り組んでいく。 ○今後も全職員で指導の共通理解（情報共有など）の推進を図り、連携し統一した指導を行っていく。
	「児童生徒に、周りの人を大事にする言葉遣いや場に合った言葉遣いが身に付いている」 ＜結果＞ 教員AB評価：46% 保護者AB評価：81% 「ほわほわ言葉を使って友達を大切にしている」児童AB評価：94% 「周りの人を大事にし、場に合った言葉遣い」生徒AB評価：93%	2.5	・敬語の使い方など、後期課程の生徒が前期課程の児童の良きお手本となってくれているところが良いと思う。義務教育学校になったメリットだと感じる。	○全職員で日常的な言葉遣いの指導の徹底を図る。 ○次年度も、生徒会と児童会を中心として「ほわほわ言葉を広げよう」の活動に取り組み、相手を大切にしたい言葉遣いや行動を認め合い、称賛し合う活動を行う。
	「児童生徒は、基本的な生活習慣（生活リズム・挨拶の習慣・整理整頓・掃除）が身に付いている」 ＜結果＞ 教員AB評価：66% 保護者AB評価：75% 「早寝早起き朝ごはんができている」児童AB評価：84% 「基本的な生活習慣が身に付いている」生徒AB評価：83%	2.7	・教員アンケート、保護者アンケート、児童生徒アンケートともにAB評価が低い。基本的な生活習慣の習得は大事なので、PTAと連携して取組を進めていかなければならない。	OPTAと連携し、前期課程では各学期ごとに「早寝早起き朝ごはん」の取組を推進していく。 OPTA研修等で基本的な生活習慣に関する研修を行うなど、保護者への啓発に取り組んでいく。
	「児童生徒の様子を学校だけでなく、学年・学級通信、家庭訪問や個人懇談会等で定期的に知らせている」 ＜結果＞ 教員AB評価：91% 保護者AB評価：95%	3.2	・学校だけでなく学年・学級通信（毎週）で児童生徒や学校の様子を知らせている。 ・家庭訪問、個人懇談会（1・2学期末）、学習参観、学級懇談会（前期）を実施することができた。	○保護者や地域の方々に対して、学校や児童生徒の様子を丁寧に発信し続け、学校教育への理解や協力を仰いでいく。 ○本校ホームページの定期的な更新を行う。
	総合所見	「児童生徒の状況」に関して、言葉遣いと基本的な生活習慣の定着が本校の課題である。保護者も課題として捉えているので、家庭と連携して言語環境や生活環境を整え、児童生徒の健やかな心身の成長を目指して取組を進めていく。さらに、PTA研修等で基本的な生活習慣に関する研修を行うなど、保護者への啓発に取り組んでいく。		